

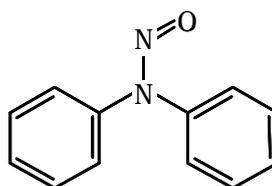
## 1. 化学物質及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当

TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂 平成22年6月21日

化学物質等のコード : 1433-3352

化学物質等の名称 : N-ニトロソジフェニルアミン



## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

健康に対する有害性  
急性毒性（経口） : 区分4  
皮膚腐食性・刺激性 : 区分2  
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2B  
発がん性 : 区分2  
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露） : 区分2（全身毒性）  
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露） : 区分2（腎臓、呼吸器、肝臓）

環境に対する有害性  
水生環境急性有害性 : 区分2  
水生環境慢性有害性 : 区分2

注意喚起語 : 警告

### 危険有害性情報

飲み込むと有害（経口）  
皮膚刺激  
眼刺激  
発がんのおそれの疑い  
全身毒性の障害のおそれ  
長期又は反復ばく露による肝臓、呼吸器、腎臓の障害のおそれ  
水生生物に毒性  
長期的影響により水生生物に毒性

### 注意書き

#### 【安全対策】

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
粉じん、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
環境への放出を避けること。

#### 【救急処置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。  
皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。  
皮膚を多量の水と石鹸で洗うこと。  
眼に入った場合、水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
皮膚刺激又は発疹が生じた時、眼刺激が持続する時は、医師の治療を受けること。  
飲み込んだ時、ばく露した時、気分が悪い時は医師の手当てを受けること。

#### 【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

#### 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、

現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	:	単一製品
化学名	:	N-ニトロソジフェニルアミン (別名) N-ニトロソ-N-フェニルアニリン、 N,N-ジフェニルニトロソアミン、 ニトロソジフェニルアミン、 N-ニトロソ-N-フェニルベンゼンアミン、 N-フェニル-N-ニトロソアニリン (英名) N-Nitrosodiphenylamine、N-Nitroso-N-phenylaniline、 N,N-Diphenylnitrosamine、Nitrosodiphenylamine、 N-Nitroso-N-phenylbenzenamine、 N-Phenyl-N-nitrosoaniline
成分及び含有量	:	N-ニトロソジフェニルアミン、 85.0%以上
化学式、構造式	:	(C <sub>6</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>2</sub> NNO、 C <sub>12</sub> H <sub>10</sub> N <sub>2</sub> O、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	198.22
官報公示整理番号	:	(3)-431
化審法	:	公表化学物質
安衛法	:	86-30-6
CAS No.	:	N-ニトロソジフェニルアミン
危険有害成分	:	

### 4. 応急措置

吸入した場合	:	直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。 気分が悪い時は、医師の診療を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を多量の水と石鹸で洗浄する。 皮膚刺激、発疹が生じた場合、医師の手当てを受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてから ゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水 で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。  まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの 隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	直ちに医師に連絡する。 速やかに、口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状: 情報なし

### 5. 火災時の処置

消火剤	:	本製品は可燃性である。 粉末消火剤、泡消火剤、水噴霧、二酸化炭素、乾燥砂 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(火災を拡大するおそれがある)
特有の危険有害性	:	火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガスを発生する可能性 がある。 加熱により容器が爆発することがある。
特有の消火方法	:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	:	有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、 空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	:	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。 海上で薬剤を使用する場合は、運輸省令の規定に適合すること。
回収、中和	:	裸火禁止。 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。

- 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。  
 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い**
- 技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
- 局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
- 安全取扱い注意事項 : 裸火禁止。  
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管**
- 技術的対策 : 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。  
 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
- 保管条件 : 直射日光や高温高湿を避ける。  
 乾燥した場所に保管する。  
 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。  
 施錠して保管する。  
 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 強酸化剤
- 容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

## 8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 未設定
- 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：  
 日本産衛学会（2009年版） 未設定  
 ACGIH（2009年版） 未設定
- 設備対策 : 取扱場所には、洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
 粉じん、蒸気、ミストが発生するときは、工程を密閉化するか、換気用の排気装置を設置する。
- 保護具**
- 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具（防塵マスク）を着用すること。
- 手の保護具 : 保護手袋を着用すること。
- 眼の保護具 : 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。  
 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 取扱い後はよく手を洗う。  
 作業衣を家に持ち帰ってはならない。  
 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態、形状、色など : 褐黄色ないし茶褐色フレーク状
- 臭い : データなし
- pH : データなし
- 融点 : 68
- 沸点 : 268
- 引火点 : データなし
- 爆発範囲 : データなし
- 蒸気圧 : 13 Pa(25 )
- 蒸気密度（空気 = 1） : データなし
- 密度 : 1.25 g/cm<sup>3</sup>
- 溶解度 : 水にほとんど溶けない（35mg/L、25 ）。  
 エタノールに溶けにくい。  
 メタノール、アセトンに溶ける。
- オクタノール/水分配係数 : log Po/w = 3.13
- 自然発火温度 : データなし
- 分解温度 : データなし
- 粘度 : データなし

## 10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 通常の取扱条件において安定である。
- 危険有害反応可能性 : 強酸化剤（硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウム等）と

避けるべき条件 : 混触すると激しく反応することがある。  
混触危険物質 : 熱、日光  
危険有害な分解生成物 : 強酸化剤（硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウム等）  
窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素

#### 11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 ラット LD50=1,650 mg/kg (CERIハザードデータ集 2001-32 (2002))、3,000 mg/kg (ATSDR (1993))、1,825 mg/kg (環境省リスク評価 第3巻 (2004))に基づき、計算式を適用して得られたLD50 1,650 mg/kgから、区分4とした。  
飲み込むと有害(経口)(区分4)  
経皮 ウサギ LD50=7,940 mg/kg (CERIハザードデータ集 2001-32 (2002))から、区分外とした。  
吸入(蒸気) データがないため分類できない。  
吸入(粉じん) データがないため分類できない。  
皮膚腐食性・刺激性 : ATSDR (1993)のばく露時間など詳しいことは不明だが、動物を用いた試験結果の記述「本物質は皮膚に対して、刺激性がある」記述から、区分2とした。  
皮膚刺激(区分2)  
眼に対する重篤な損傷・刺激性 : CER Iハザードデータ集 2001-32 (2002)のウサギを用いた眼刺激性試験結果の記述「軽度の刺激性」から、区分2Bとした。  
眼刺激(区分2B)  
呼吸器感受性 : 情報がないため分類できない。  
皮膚感受性 : 情報がないため分類できない。  
生殖細胞変異原性 : ATSDR (1993)、PATTY (4th, 1999)、CERIハザードデータ集2001-32 (2002)、NTP DB (Access on Feb., 2006)の記述から、経世代変異原性試験なし、生殖細胞in vivo変異原性試験なし、体細胞in vivo変異原性試験(小核試験)で陰性であることから、区分外とした。  
発がん性 : IARC、ACGIH、NTP、EPAに記載がないため、分類できない。  
生殖毒性 : データ不足のため分類できない。  
特定標的臓器・全身毒性  
(単回ばく露) : 実験動物については、「摂餌量減少、自発運動低下、衰弱、振戦、虚脱」(CERIハザードデータ集 2001-32 (2002))等の記述があるが、これらの症状から、標的臓器を特定できなかった。なお、実験動物については、区分2に相当するガイダンス値の範囲で見られた。  
以上より、分類は区分2(全身毒性)とした。  
全身毒性の障害のおそれ(区分2)  
特定標的臓器・全身毒性  
(反復ばく露) : 実験動物については、「気管支肺炎及び肺気腫、肝臓の脂肪変性及び顆粒状変性、腎臓の混濁腫脹」(環境省リスク評価第4巻(2005))等の記述があることから、呼吸器、肝臓、腎臓が標的臓器と考えられた。なお実験動物については、区分2(呼吸器、肝臓、腎臓)に相当するガイダンス値の範囲で見られた。以上より、分類は区分2(呼吸器、肝臓、腎臓)とした。  
長期又は反復ばく露による呼吸器、肝臓、腎臓の障害のおそれ(区分2)  
吸引性呼吸器有害性 : データがないため分類できない。

#### 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 : 魚類(ブルーギル)の96時間LC50=5800 µg/L(環境省リスク評価第2巻、2003)から、区分2とした。  
水生生物に毒性(区分2)  
水生環境慢性有害性 : 急性毒性が区分2、生物蓄積性が低いものの(BCF=42(既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存化学物質安全性点検データ))ことから、区分2とした。  
長期的影響により水生生物に毒性(区分2)

#### 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。  
廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。  
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。  
(参考)燃焼法  
可燃性溶剤に溶かし、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。  
汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

#### 14. 輸送上の注意

国内規制(適用法令)

陸上規制	: 規制なし
海上規制	: 規制なし
航空規制	: 規制なし
国連番号	: 非該当
国連分類	: 非該当
品名	: 非該当
海洋汚染物質	: 非該当
特別の安全対策	: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 変異原性が認められた既存化学物質 (法第57条の5、労働基準局長通達)
化審法	: 第三種監視化学物質 No.36
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	: 平成21年10月1日改正後、 ・種別 第2種指定化学物質 ・政令番号 「第70号」 ・政令名称 「N-ニトロソジフェニルアミン」 (改正前PRTR法: 第1種、第238号)
消防法	: 非該当
毒劇法	: 非該当
船舶安全法	: 非該当
航空法	: 非該当
海洋汚染防止法	: 非該当

16. その他の情報

用途 (当該製品規格に限定されない一般用途)  
: 試薬、スコッチ防止剤 (ゴム製品)

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献	:
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。